■意見

水山高久

１．計画洪水位から堤防天端までの補強について

水防活動で対応するのが良いと考えます。その理由は、危険性が高い場所で、必要な時に対応できるからです。もちろん短時間に確実に安全性を上げる水防工法（道具を含めて）の開発は必要でしょう。一過性で無く、ある程度の期間効果の存続する工法が望まれます。

２．堤防の浸透に対する安全性

堤防は中身を知る事は難しいのですが、過去の出水である程度までの浸透を経験しています。水位と継続時間が場所ごとに記録されていれば、経年的な劣化を無視すれば、その条件までの安全性は証明されている事になります。

３．難破堤堤防の検討

淀川では、検討会を設けて検討されていると聞いています。どのような検討結果になっているのでしょうか。堤防の斜面を（鉄筋）コンクリート盤で覆うのでしょうか。コンクリートブロックでしょうか。ある程度の地盤改良を行って、その上に施工するのでしょうね。その上に土を敷いて草の種を播くのですか。もしくは、現在の堤防斜面に侵食に強い芝などを張るのでしょうか。施工順位はどう決めるのでしょう。堤防の河川側の侵食対策や法尻の工事では住民の関心も低いでしょうが、計画高水位まで堤防を下げて難破堤堤防の工事を行う場合は工事の順番を住民に説明する必要があるでしょう。水没する地域の方々に犠牲を強い、環境に影響を与えながらもダムは、効果が量的に評価され、確実に進めることができる方法であるのは確かだと思います。